



持続可能な食の生産・流通・消費に関する研究

生活環境科学系・生活文化学領域

青木 美紗

准教授 AOKI misa

博士(学術)(奈良女子大学)

■研究キーワード 食と農,地産地消,農産物の付加価値化,農産物流通,アジア途上国における農の観光化,協同組合

■主な所属学会 日本農業経済学会,地域農林経済学会,日本協同組合学会,日本家政学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.cd750c8a9724f02a520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

食は生きていく上では欠かせないものですが、意外と自分の食べているものについて考えている人は少ないのではないのでしょうか？お金で購入できる食べ物は、自然環境の力を借りながら誰かが生産していて、誰かが運搬し、誰かが加工して、誰かが販売して消費者のもとに届きます。グローバル資本主義経済のもとでは、気候変動だけでなく、金融や政策、政治が食の安定供給に大きく影響し、お金があれば常に欲しい食べ物を購入できる時代ではなくなってきました。またその仕組みを知らずに価格だけで購入していると、どこかの誰かを苦しめることにも繋がるかもしれませんし、食文化の喪失や地域経済の衰退を招きます。

このような状況において、どのような生産、流通、消費のあり方であれば、持続的に良質な食を供給し消費することができるのかを、フィールドワークやアンケート調査など現場に出向いた研究で解明しようとしています。日本国内の研究が中心ですが、諸外国にもたくさん参考にできることがあるため、アジア諸国を中心に研究を進めています。



↑ なるべく外部に依存しない米作りを聞き取り調査をしながら実践

↓ 牛の飼育から牛肉加工までを一貫して取り組んでいる生産者団体への聞き取り調査



アピールポイント

【現場を重視】

座学や先行研究はもちろん重要ですが、食の生産・消費・流通は人間が関わることなので、地域や人間関係、関係者の考え方によっても大きく左右されます。したがって、必ず現場を何度も訪問し、時には農作業や加工作業などを手伝いながら、関係者と信頼関係を構築し、データを収集する研究スタイルをとっています。分析は質的分析・量的分析の双方を状況に合わせて使い分けます。

【アグロエコロジー的研究】

大量生産・流通・消費という経済効率性だけを追求した食システムでは多様な社会問題が発生してきたため、それに替わるオルタナティブ・フードシステムの構築過程に焦点を当てて研究を進めています。自然生態系を活かした食生産や流通の在り方を探求するアグロエコロジーという学問分野の視点を入れた研究です。海外ではアグロエコロジー研究も進んでいますが日本ではまだまだ普及していないので、この分野の普及にも繋げていきたいと思っています。米に関しては実際に生産にも関わりながら研究を進めています。

収穫した種籾→



【研究事例】

- 認証エコ農産物の地産地消を普及するための生産・消費要因
- 生産者と消費者の直接取引である生協産直の課題
- 信頼と共感によるオルタナティブ・フード・ネットワーク構築過程
- 伝統的農法の観光資源化による地域振興
- 生協や農協の女性組織による食に関する活動研究
- 持続可能な食生産への多様な人材の関わり方—新たな「結」—など